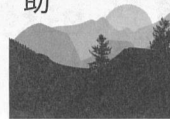


ヨーロッパを歩く(25)

相模 小西長之助



スイス東部にあるサメダンというまちのこのペンションは、家族が少なくなつて広すぎるようになった住宅を、改装したものだ。3メートル四方くらいの玄関ホール、右側に、こじんまりしたキッチンがあり、そこがホテルのフロントのようになっている。

レーティッシュ鉄道のサメダン駅の観光案内所から連絡して、歩いてたためか、50歳くらいのマダムが私たち6人を愛想よく迎えてくれた。セピアの太いストラップのシャッターがよく似合っている金髪のマダムは、タレントのイーデス・ハンソンに少し似ている。宿泊手続きをしていると、70歳前後の日本人らしい3人の男性が入ってきた。軽装ではあるが登山姿だ。大きい荷物を持っていないところからみて、このペンションの泊まり客が、外出から帰ってきたのかも知れない。

「日本の方ですか？」

海外では日本人のような顔をされていて、日本語が通じない人もいるので、一応確かめてみる。

「ええ、そうです」

「いつ、来られましたか？」

「スイスへは、ひと月ほど前に来ました。ここは5日目です」

毎日近くの山に登って楽しんでいて、まだ3日くらいここにいてという。日本人と会って話すのは5日ぶりのことであり、とても懐かしい。

世間のわずらわしさから離れて、好きなことに没頭している彼等の生活は、まさに悠々自適ではないか。その物腰から、サラリーマンを長くやってきたようにみえる。退職のあとの十分な時間と年金によって、このようなゆとりと時を過ごしているのだらう。

う。気ままな海外旅行を何回か続けてきて、ちよつぱりリッチな気分を味わってきたが、数段スケールの大きな贅沢で優雅な生き方をしている彼等を見て驚き、すごく羨ましく思う。数年後にひかえた退職のあとの生きかたが見えきたような気がする。

私たちは翌朝、サメダン駅発7時18分の電車で、イタリヤ領との国境を越え、50歳のまちティラノまでの鉄道沿線の風景を楽しむことにしている。スイスのなかで、最も風光明媚といわれるベルニナ・アルプスの60キロほどのこのルートは、白銀の峰々や氷河が続いていて、さぞかし私たちが酔わせてくれるに違いない。

スイス・アルプスの撮影が、いよいよ明日から始まるのだ。36枚撮りフィルムを80本ほど用意しているの、撮って撮って撮りまくると、心が弾んでいる。

ただ、このペンションの7時半からの朝食が食べられないのが残念だ。マダムにそのことを話すと、「なぜ食事をしないの？私どもは朝食を食べても美味いしと評判なのよ」と理由を話すと、すぐ時刻表を調べてくれて、「8時30分の電車にしなさいよ。そうしたら、ゆつくり食事ができますよ」お節介なマダムが命令口調で言う。スイスに来るまでに泊まってきたドイツのペンションでも、マダムから家庭的なものを半ば強制？され、気をよくしていた矢先のことである。翌朝、マダム自慢のコーヒーや美味しい生ハム、自家製のパンや数種類のジャムなどを腹いっぱい馳走になる。コーヒーは適度の苦味とコクがあり、いつの間にか2杯もお代わり

「オラ！ ス페인」その1

千葉県支部 高垣むつ子



2014年5月中旬にスペインに旅しました。スペインは広いので、2回に分けてお伝えします。

タイトル「オラ」はスペイン語で「こんにちは」の意味です。何時でも何処でも気軽に使えます。

航空券とホテルはネットで調べてから、電話で予約しました。まず成田からオランダへ飛び、飛行機を乗り換えてスペインのマドリッドに着。二泊して、日本の旅行会社の現地支店に依頼したスペイン国鉄(renfe)の列車でグラナダに移動し、二泊したのち、同じく予約した国内線の飛行機でバルセロナに飛び、ここで三泊してから、再びオランダを経由して成田に戻るスケジュールを組みました。今回はグラナダまでのお話です。

マドリッド・バラハス空港からレンフェの近郊線での中心のアトーチャ駅に着く。この駅の近くのホテルを予約した。駅員さんに聞くと、直ぐそこだよと言われ、ホテルが見えるところまで案内してくれました。午後9時近くだがまだ明るい。知らない土地で重い荷物を引きずりながらのホテル探しは危険なので、明るいうちにホテルにチェックインできて、ひと安心。

マドリッド2日目。ソフィア王妃芸術センターとプラド美術館の見学と、時間があれば、サン・ミゲル市場にも行ってみたいと思う。毎朝、二千元もするレストランの朝食をするわけもなく、部屋でお茶漬は来ない。

午後1時半、グラナダに着。ホテルは駅から歩いていける。すぐ、チェックインできた。荷物を部屋に置いて、

すぐに情報を集めるに出かけた。空港行きのバス停とバス時間をホテルのスタッフに聞き、実際に待つ時間と違わないように待つことにした。

5日目のバルセロナに移動する。情報はOK。問題はアランブラ宮殿のチケットをどうやって入手するか。ここを見学しなければグラナダに来た意味がない。事前に調べては来ているものの、ひとつはつきりしない。そこで、実際にチケット売場に行くことにした。市の中心へは市バスで、あとはコミュニティバスとも言えるアランブラバスで宮殿に行った。細い曲がりくねった道を登っていく。チケット売場にはやはり列になっていて、並ぶとすぐに売り切れのアナウンスがあり、確認のため係の人に聞いてみた。予約はすべてネットか電話で受け付けること。当日売りは午前8時から発売されること、宮殿の外のトイレは8時にならないと開かないことなど、細かなところまで聞いて、翌日の朝再び並ぶことにした。

翌日朝食も取らずに宮殿へ出かける。7時にならないとコミュニティバスが動かないらしいので、ホテルを出発した7時半には、もう走っていた。宮殿到着7時45分。すでに150人程並んでいる。たぶん寒いだろうと思ひ、着込んでいた。案の定寒い。薄着の女性達はずきまっていた。8時チケット売場が開く。9時40分、午前のチケットを入手。近くにある売店でサンドイッチとコーヒーを買い、ベンチで食べる。チケットにはこの宮殿のメインとも言えるナセル朝宮殿への入場時間が記されていて、この時間の2時間前位に入れば大体のところは見学でき、最後にナセル朝宮殿に入れば良いと思う。この

薩摩辞書と前田正名

S47 文理・英文 鳥根県支部 坂本育穂

平成12年10月末、九州プロック総会で鹿児島県に行き、少しく市内を歩いた。ザビエルの滞留記念公園、西郷さんの銅像等を巡って後、鹿児島県立図書館の前を通った時、何か目がありそうな大きな碑が目に入り、近寄ってよく見ると碑面には「AN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY」

薩摩辞書の碑」その下部に「SHANGHAI AMERICAN PRESBITERIAN MISSION PRESS 1869」云々とあった。同図書館がその「薩摩辞書」を所蔵しているというのだ。

「薩摩辞書」とは「鹿児島大百科事典」よれば、「薩摩版英和辞書で、慶応元年(1865)薩摩藩士高橋新吉、前田献吉、前田正名の3人が藩庁から資金を借りて、中国の上海で開成所版の英和辞書を翻刻し、当時広く利用されたことなど、細かなところまで聞いて、翌日の朝再び並ぶことにした。

翌日朝食も取らずに宮殿へ出かける。7時にならないとコミュニティバスが動かないらしいので、ホテルを出発した7時半には、もう走っていた。宮殿到着7時45分。すでに150人程並んでいる。たぶん寒いだろうと思ひ、着込んでいた。案の定寒い。薄着の女性達はずきまっていた。8時チケット売場が開く。9時40分、午前のチケットを入手。近くにある売店でサンドイッチとコーヒーを買い、ベンチで食べる。チケットにはこの宮殿のメインとも言えるナセル朝宮殿への入場時間が記されていて、この時間の2時間前位に入れば大体のところは見学でき、最後にナセル朝宮殿に入れば良いと思う。この

出版はあったが英和辞書の要件を満たすには十分ではなかった。しかし「語林大全」の約50年後の文久2年(1862)「英和対照袖珍辞書」(エイトワイヤクシユウチンジヨ)が発刊された。これは幕府開成所教授堀達之助がピカードの英蘭辞典を底本として中心となって編集したもので、収録後約33000、多義語訳語、品詞、動詞変形型があつて、本格的な英和辞書と言える物だったが発音は全くなかった。英語部分はオランダから幕府に献上された鉛活字、日本語訳は木版刷りで我が国最初の洋装活字本とされる。ところが発行部数約200部だったので急ち売り切れ、二十両もの高値だった。番書調教授だった西周助も編集者の一人だ。袖珍(シユウチン)は「ポケット」の意。そして慶応2年(1866)その改訂版「改正増補英和対照袖珍辞書」が堀達之助の次男亀之助を中心として、木版両面刷りで1,000部が発行された。

「薩摩辞書の発刊」

風雲急を告げる幕末にあつて、志ある当時の青年の夢は長崎に遊学して海外渡航を果たし西洋文明を吸収することにあつた。(次頁に続く)

地方産業の啓蒙、育成奨励に努めた人物であるが、鳥根にも来県しているというのでその事も合わせて述べることにする。

【幕末の英語辞書事情】

さて、我が国で本格的な英和辞書が出版されたのは文化8年(1811)の本木正栄による「諸厄利亜興学小筈」(アンケリア コウガクシヨウゼン)が最初である。会話、語彙等について全10巻約2000語を収録、発音は朱筆片仮名綴りだった。「諸厄利亜」はイギリス、「興学」は学び始める、「小筈」は謙遜。続いて文化11年(1814)本木正栄他4名編になる「諸厄利亜語林大全」(アンケリアグリンダイゼン)が幕命を受けてオランダ人プロムホフの指導の下に完成した。全15巻約5900語を収録。英語単語の脇に片仮名で発音、下単語に簡単な訳語、英文法の解説等をつけてあり「日本最初の英語辞書」と言えるが、幕府に秘蔵されて一般に公開されなかつた。その他「エグレス語辞書和解」や福沢諭吉の手になる「増訂華英通語」等々

日本大学通信教育部校友会 監査
日本大学通信教育部校友会 東京都支部顧問・会計

富澤良光
〒121-0056 東京都足立区北加平町十八-五
TEL 03-3361-9181
FAX 03-3361-9146

日本大学通信教育部校友会 相模後
堀川正夫
〒290-0005 市原市山木五六一-二九
TEL 0476-33-7474
FAX 0476-33-7475

日本大学校友会 委員
日本大学通信教育部校友会 副会長 財務部長
日本大学千葉校友会 顧問

山本良吉
〒290-0011 千葉県市原市能満三〇六-三
勤務先 市原田園ホム(株)
TEL 0436-251-1331
FAX 0436-241-2551

日本大学通信教育部校友会 副会長・広報部長
日本大学通信教育部校友会 埼玉支部支部長

鎌子健
事務局 〒102-8005 東京都千代田区九段南四八-二八
日本大学通信教育部内
TEL 03-3133-4158
〒102-8005 東京都千代田区九段南四八-二八
TEL 0476-33-7474
携帯 090-4121-6350
Email: kane@dnac.ac.jp

日本大学通信教育部校友会 副会長
日本大学通信教育部校友会 関東ブロック長
日本大学通信教育部校友会 東京都支部支部長

金子栄輔
〒179-0074 東京都練馬区春日町三十九-一
電話 03-5555-3146

日本大学通信教育部校友会 相模後
株式会社化粧品代表取締役 会長
石川寿朗
〒188-0012 東京都西東京市南町五十二-四
TEL 042-461-6138
FAX 042-461-6138
携帯 090-5757-5832

日本大学校友会 正会員、埼玉支部常任幹事
日本大学通信教育部校友会 副幹事長、埼玉支部顧問
埼玉県生態系保護協会 生態系保護指導員 一級
日本自然保護協会 自然観察指導員 一級
さいたま緑のトラスト協会 会員
埼玉県地方史研究会 会員

斎藤照夫
〒367-0202 埼玉県本庄市児玉町下浅見八〇-二
電話 0495-71-2104